

**金型製作、プレス加工、アッセンブリによる一貫生産が強みの金属加工メーカー。特定業種に偏らず自動車、住宅機器、産業機器、電子機器などをバランスよく受注。中でも最新のプレス機を揃える豊津工場行橋は自動化、省人化が進み、生産力を向上させている。**

## 株式会社深江工作所 豊津工場行橋

### 福岡県内に6つの生産拠点

(株)深江工作所は戦後間もない1946年の創業で、金型治工具の製造からスタート。その後プレス部門を併設し、金型製作からプレス加工、アッセンブリまでの社内一貫生産体制を確立した。現在は、福岡県内に2つの事業部と6つの生産拠点を持つ。1つは金型の設計・製作を行う製造事業部であり、八幡事業所(北九州市八幡西区)と中間事業所(中間市)の2ヶ所を拠点とする。もう1つはプレス加工やアッセンブリを行うプレス事業部であり、豊津工場(京都郡みやこ町)、豊津工場水巻(遠賀郡水巻町)、豊津工場中間(中間市)、豊津工場行橋(行橋市)の4ヶ所が拠点である。

### 特定業種に偏らない

同社の営業戦略の特徴は、特定の業種に偏らず、

自動車、住宅機器、産業機器、電子機器などをバランスよく受注していることだ。「私は入社から約10年間、金型設計を担当した後はずっと営業でしたのでよく分かりますが、特定業種だけに依存しているとリスクが大きいです。例えば、昨今のように半導体が入ってこない、自動車関係はとくに大きな痛手を受けます。その証拠に、ある自動車部品メーカーの協力会の中で、前期に黒字決算を出したのは当社だけでした。当社のやり方は『ダボハゼみたいだ』と揶揄されたこともありましたが、その方針に間違いはなかったと思っています」とプレス事業部工場長の吉田健治氏は話す。

今期、プレス事業部は54億円の売上を見込むが、そのうち最も多いのは住宅機器の32.8%であり、自動車部品は2番目の26.8%となっている。今後も前記4本柱の業種を中心に、バランスのよい形で売上を伸ばしていく考えである。



▲ PMX-L2-12000(1200トン)+レベラーフィーダーTFH-1000E